

## ◇ 戸 澤 勉 君

○議長（高橋 猛君） 次に、14番、戸澤 勉君の一般質問を許可いたします。戸澤 勉君、登壇願います。

（14番 戸澤 勉君 登壇）

○14番（戸澤 勉君） 私の今回の質問は、かなり以前から考えておりました。それは、民生児童委員活動に対する認識と理解度が余りに低いと思ったからです。本日の傍聴希望者が多いこともこの質問の通告書を出した時点で初めて知りました。が、質問者が多いと午後になるのだろうと思っておりました。事前に傍聴希望者が多いことを知っていたのではと勘ぐる人もおるようでしたが、それよりも毎日のように問題が発生しているときに的確な対応ができるように、それぞれの責任をしっかりと果たしていかなければならないと思います。そこで、自殺対策について質問いたします。全国の自殺者数は10月末で2万7,644人にのぼり、去年同期より447人多く、12年連続で3万人を突破するのはほぼ確実な上、これまでの最悪になるのではと懸念されています。交通事故で死亡した人の6倍にもなり、国では12月1日を「いのちの日」として、福島瑞穂少子化問題担当大臣は、「我が国は、自殺戦争の中にある」と危機感を表明しました。自殺防止へ「100日計画」をまとめ、雇用情勢の悪化で年末や年度末に増加が心配され、緊急対策を発表し、ハローワークに総合的な相談窓口を設置するといいます。秋田県でもさまざまな悩みに対応する県内の相談機関を広く知ってもらおうと、12月1日に佐竹敬久知事を先頭に、県の担当者や民間団体から参加して街頭キャンペーンを行い、うつ病や多重債務などに対する相談窓口の連絡先が書かれたチラシを手渡しアピールしました。去る9月26日、27日には、秋田市で「自殺対策全国フォーラム」が開催され、報道では臨場感をもった対策が必要であり、相談体制のあり方を探り核になる人物が必要とありました。本県の自殺者数は毎年400人以上と、全国の自殺率ワーストから脱却できずにおります。県でもあらゆる対策を進めており、その効果も出ているようですが、やっと本格的に動き始めた感もあります。自殺に関する連日の新聞報道もあり、人ごとでないと思っている人たちも多いと思います。私ごとですが、10歳のときに父の自殺により、母と祖母に育てられました。幼心にどうして、どうしてと心の底で何回も叫んでいました。36歳のときに、当時の住民課長と農協の組合長の訪問を受け、民生児童委員を強く勧められ、固辞しましたが結局引き受けてしまいました。子育ての最中でもあり、委員の務めはととても難儀でした。反面、社会勉強になり、同僚委員にも恵まれ貴重な経験でした。自殺の原因は多種多様であり、対策も大変難しいわけですが、今悩んでいる人に自殺を思いとどまる対策の周知が大切です。我が町の現状と、その対策についてお伺いいたします。住民の方々に最も身近で頼りにされている民生児童委員の

相談活動に自殺対策もお願いし、あわせて委員の待遇改善も必要と思います。また、社会福祉協議会の相談機能の充実も大切であり、人材を広く求めるべきと思います。「北風と太陽」のお話の旅人のマントを脱がせるごとく、悩んでいる人の心の扉を少しでも開いてもらえる努力の積み重ねが大切だと思います。深刻な悩みを抱えながら、だれにも相談できない人、生きる気力を失いかけている人を気づいてやれる、「気づきのまちづくり」にともに励みたいと思います。次に、町道の改良工事について伺いたします。町では、公共施設再編や学校統合が急ピッチで進んでおり、あわせて社会福祉協議会や商工会の統合も計画中のようです。このことから、交通の流れも変化し、スクールバスの運行も多くなり、町内の横の連絡道路の改良が急務となっております。町道竹原・内村線の改良計画についてお伺いたします。その全体計画と、その取組についてお知らせ願いたいと思います。以上です。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） 戸澤議員のご質問にお答えいたします。

初めに、自殺対策の相談機能についてですが、ことし11月、自殺問題を担当する福島内閣府特命担当大臣がまとめた報告書に、「自殺の要因は単純ではなく、一人の自殺の背景には平均四つの要因が潜んでいる。自殺をされた方の72%が、亡くなる前に何らかの専門機関に相談に行っている」との記述がありますが、健康問題や経済、生活に関する問題、家族の問題、勤務先の問題などさまざまな要因が複雑に絡み合う自殺問題に対応するためには、議員ご指摘のとおり、地域における相談体制の整備、相談に携わる方の養成を地道に行うことが有効かつ着実な手段ではないかと考えております。町においては、総合計画に自殺による死亡者の減少を目標に掲げ、これまで全地区で実態調査として住民アンケートを実施するとともに、その結果に基づく希望者による面接相談、メンタルヘルス対策としての「元気アップセミナー」の開催、自殺予防活動に関する基礎的な知識と技術を身につけたメンタルヘルスサポーターの養成、また、その養成講座の修了者で構成される「てとての会」による憩いの場づくりなどを支援、推進してきたところです。ことし10月現在の状況は、残念ながら5名の方がお亡くなりになっておりますが、昨年同期と比較しますと減少しているところです。また、自殺予防対策の推進に当たっては、やはり住民の立場に立って相談に応じる民生児童委員の役割も重要と考えております。町では、現在68名の民生児童委員の方々が町内各地域で活躍されており、1人当たり平均約100世帯、多い方では約180もの世帯を担当していただいております。平成20年度の相談件数は約2,400件で、その内容は健康から雇用、家族のことや生活環境、子供の教育など多岐にわたり、これらの相談はまず一たん民生児

童委員が受けとめ、行政や社会福祉協議会等の関係機関につないだり、ともに見守ったり、ときにはみずからの技量や裁量によって解決したりと、身近な相談窓口として非常に重要な役割を担っていただいております。町としては、こうした活動に感謝するとともに、評価しているところでもありますので、議員にはこうしたとらえ方にご理解をいただきたいと存じます。その上で、こうした相談活動が自殺予防につながっていくことを期待したいと存じます。また、社会福祉について、総合的な相談窓口となっております社会福祉協議会も、議員ご指摘のとおり大切な存在です。社会福祉の一環としての相談活動を今後とも主体的に展開されることをお願いしたいと存じます。いずれ、自殺対策については、冒頭申し上げましたとおり、さまざまな要因が複雑に絡み合っているものと存じますので、私ども初め、県や町社会福祉協議会、民生児童委員など関係機関、関係者の総合的な取り組みとその周知が肝要と存じます。そのため、今後も関係機関、関係者との情報交換を密にしながら、連携のとれた取り組みとその周知に努めてまいります。なお、美郷町の民生児童委員の活動に対する費用弁償については、県内の他自治体と比較して遜色ないと伺っておりますので、どうかご理解いただきたいと存じます。

次に、町道竹原・内村線の改良工事についてですが、現在町では、公共施設への到達時間の短縮や地域間交流の促進、公共施設の再編などを視野に入れ、町総合計画や地域活力基盤創造交付金事業年次計画に基づき、計画的な道路整備を実施してきており、町道竹原・内村線もその計画にある一路線となっております。本路線の拡幅改良につきましては、以前より地域の方々から要望され、また、平成22年度から事業が開始される大畑地区農地集積加速化基盤整備事業にあわせ、拡幅のための用地を創設換地により確保する申し出を受けております。そのため、町では去る8月27日、大畑部落会館で開催されたやまびこ座談会において、本路線の拡幅改良工事の要望に対し、平成22年度から事業に着手する予定であることを回答しているところです。計画では、平成22年度に路線用地測量、計画設計を行うこととなっております。また、次年度以降、支障物件の調査や用地買収などを行い、その後随時工事に着手したいと考えております。しかし、平成22年度国土交通省予算概算要求によりますと、地域活力基盤創造交付金は前年度対比80%となっておりますので、町の事業要望額のとおり交付決定されるかどうか難しいところです。交付額によっては計画のとおり実施できない場合もありますので、ご理解をお願いしたいと存じます。以上です。

○議長（高橋 猛君） 再質問ありますか。

○14番（戸澤 勉君） ありません。どうもありがとうございました。

○議長（高橋 猛君） これで、14番、戸澤 勉君の一般質問を終わります。